

|          |             |         |       |       |     |
|----------|-------------|---------|-------|-------|-----|
| 授業科目     | 理学療法分野別特別演習 |         |       |       |     |
| 担当者      | PT専任教員      | (オムニバス) |       |       |     |
| 実務経験者の概要 |             |         |       |       |     |
| 学科名      | 理学療法学専攻     | 学 年     | 3年～4年 | 総単位数  | 3単位 |
|          |             | 開講時期    | 通年    | 選択・必修 | 選択  |

## ■ 内 容

理学療法分野別特別演習は、「基礎教育分野の共通部分」と「分野別特別演習」から構成されている。

### 【共通部分】

- ・臨床医学の知識定着を図る。
- ・適宜グループ活動を行い、学習内容、進捗状況、学習成果などの確認や向上に取り組む。

### 【分野別特別演習】

- ・少人数グループ(ゼミ)形式で、理学療法士が関わる職域について理解を深め、知識・技術を補う

## ■ 到達目標

### 【共通部分】

- ・臨床医学領域の国家試験問題について、頻出項目を把握できる。
- ・単純に覚えるといった浅い理解でなく、解剖・生理・運動学の知識を用いて臨床医学を理解することができる。(深い理解：他者へ説明できるレベル)
- ・頻出の分野における国家試験過去問に関しては、最低でも8割以上の正答率となる。(知識の定着)
- ・理学療法士を目指すコミュニティの一員としての責任を果たす。(主体的で協同的な学習)

### 【分野別特別演習】

- ・理学療法におけるリスク管理・評価・治療を学び、総合的に考える力を身につける
- ・計測や評価を通じて、身体の動きや働きの理解を深める

## ■ 授業計画

16回目以降については、各ゼミ担当の教員より詳細の提示があります

- 第1回 オリエンテーション  
国家試験の傾向と学習方法(学習の意図, 進め方)
- 第2回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習1
- 第3回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習2
- 第4回 呼吸器領域の臨床医学に関する学習3
- 第5回 呼吸器領域に関する復習・まとめ
- 第6回 循環器領域の臨床医学に関する学習1
- 第7回 循環器領域の臨床医学に関する学習2
- 第8回 循環器領域の臨床医学に関する学習3
- 第9回 循環器領域に関する復習・まとめ
- 第10回 神経系領域の臨床医学に関する学習1
- 第11回 神経系領域の臨床医学に関する学習2
- 第12回 神経系領域の臨床医学に関する学習3
- 第13回 神経系領域の臨床医学に関する学習4
- 第14回 神経系領域に関する復習・まとめ
- 第15回 呼吸器・循環器・神経系領域に関する復習・まとめ
- 第16回 各分野における疾患の病態を理解する①
- 第17回 各分野における疾患の病態を理解する②
- 第18回 各分野における疾患の病態を理解する③
- 第19回 各分野における疾患の病態を理解する④

- 第20回 各分野における疾患の病態を理解する⑤
- 第21回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ①
- 第22回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ②
- 第23回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ③
- 第24回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ④
- 第25回 理学療法における計測・測定・検査を学ぶ⑤
- 第26回 計測・測定・検査の結果を解釈する①
- 第27回 計測・測定・検査の結果を解釈する②
- 第28回 計測・測定・検査の結果を解釈する③
- 第29回 計測・測定・検査の結果を解釈する④
- 第30回 計測・測定・検査の結果を解釈する⑤
- 第31回 理学療法アプローチを学ぶ①
- 第32回 理学療法アプローチを学ぶ②
- 第33回 理学療法アプローチを学ぶ③
- 第34回 理学療法アプローチを学ぶ④
- 第35回 理学療法アプローチを学ぶ⑤
- 第36回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める①
- 第37回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める②
- 第38回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める③
- 第39回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める④
- 第40回 ペーパーペイシエントや文献を通じて理学療法プロセスの理解を深める⑤
- 第41回 まとめ①
- 第42回 まとめ②
- 第43回 まとめ③
- 第44回 まとめ④
- 第45回 まとめ⑤

## ■ 評価方法

### 【共通部分】

成績全体の30%に相当する。

共通部分の成績を100点とすると、複数回実施する確認テスト合計で60点、ノート提出の有無と質で40点で採点する。

正当な理由のない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の準備不足など）は減点（1回につき-4点）とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

### 【分野別演習】

成績全体の70%に相当する。

参加態度（正当な理由・連絡のない欠席-4点、遅刻・早退-2点の減点となる）、課題への取り組み、理解度確認

テスト（筆記・実技）などで総合的に判断する。

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

### 【共通部分】

授業内で取り扱う内容は基本的に2年生までに学習している内容である。

国家試験合格に必要な知識を自らまとめていく作業を行うため、授業時間内での学習のみならず、時間外での取り組みが必須である。

学習内容はノートなどにまとめていくことを基本とし、それを毎週提出することが必要である。

学習のペースは授業内で説明する。

### 【分野別演習】

各ゼミ担当教員より指示する

## ■ 教科書

書名：病気がみえる vol.2 循環器  
著者名：医療情報科学研究所（編集）  
出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.4呼吸器  
著者名：医療情報科学研究所（編集）  
出版社：メディックメディア

書名：病気がみえる vol.7脳・神経  
著者名：医療情報科学研究所（編集）  
出版社：メディックメディア

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

## ■ 講義受講にあたって

### 【共通部分】

この科目内容を理解・定着するためには、「基礎解剖学」「神経系の解剖学」「内臓系の解剖学」「生理学Ⅰ～Ⅳ」「生理学実習」「内科学Ⅰ／Ⅱ」「臨床神経学Ⅰ／Ⅱ」などの科目の理解が重要である。

また、「呼吸器障害理学療法治療学」「神経障害理学療法治療学Ⅰ／Ⅱ」「循環器障害理学療法治療学」へとつながる内容である。